

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者様の試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称：橈骨遠位端骨折術後におけるスプリント使用と術後成績の関連－多機関共同後ろ向き観察研究－

研究の目的

橈骨遠位端骨折は上肢骨折の中で最も頻度が高い骨折の一つであり、骨折後には手術治療が行われることが多い疾患です。手術治療にて十分な骨折部の安定性を得られることが可能で、術後早期よりリハビリテーション治療が行われます。手術後には手関節を一定期間固定するスプリントを装着することがありますが、手術後にスプリントによる手関節固定の有無が機能や満足度に与える影響は明らかになっていません。本研究で橈骨遠位端骨折術後のスプリント使用の有無が手関節機能および患者満足度に与える影響を明らかにすることを目的としております。

研究実施期間： 実施許可日～2028年3月31日

対象となる方： 2023年4月1日～2024年3月31日までの間、当院整形外科にて橈骨遠位端骨折と診断され、手術治療を施行後にリハビリテーション治療を受けられた方。

利用させていただきたい情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

当院の診療録に記録されている情報のうち、患者背景、術後スプリント使用の有無、スプリント装着期間、握力、関節可動域、レントゲン画像でみた骨の位置や傾き、患者満足度として Disabilities of the Arm, Shoulder and Hand The JSSH Version (DASH) を標記研究のために利用します。また、本研究は多機関共同研究であり、収集したデータは個人が特定できないよう仮名化した上で、以下の共同研究機関へ提供されます。

提供先機関

- ・ 済生会小樽病院手・肘センター（研究責任者：山中佑香）
- ・ 札幌禎心会病院（研究責任者：長南行浩）
- ・ 函館五稜郭病院リハビリテーション科（研究責任者：佐藤大樹）

スプリント使用の有無により、リハビリテーション治療後の患者満足度に関する指標を統計解析的手法を用いて比較することで、手関節機能および患者満足度に与える影響を明らかにしたいと思っております。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを仮名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	医療技術部リハビリテーション部門 研究代表者：氏名 西村信哉 連絡先電話番号 0172-39-5318
--------------	--